

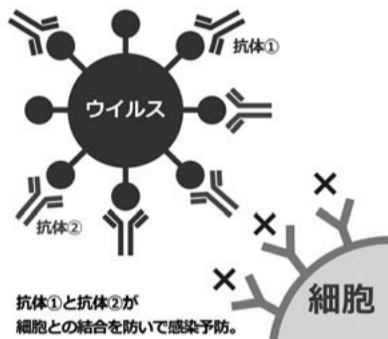
開発に期待したい新型コロナウイルスの治療薬

千秋病院 薬剤師 原田 真紀

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、ワクチンの効果と治療薬開発に期待が大きくなっています。

日本ではこれまでに、新型コロナウイルスの治療薬として「レムデシビル」「デキサメタゾン」「バリシチニブ」の3つの薬が承認されています。

が、いずれも中等症〜重症の患者が対象でした。新たに承認された『抗体カクテル療法』と呼ばれる「カシリビマブ/イムデビマブ」は軽症〜中等症の患者が対象で、軽症の患者に使える治療薬としては初めての承認となります。抗体カクテル療法は、高齢者や基礎疾患



がある人など、重症化リスクの高い人への早期治療で重症化を防ぐことが期待されています。

このほか複数の国内企業が既存薬の転用や新薬開発を進めており、「飲み薬」タイプを想定した治療薬候補の治療も開始されています。

新型コロナウイルスに怯えることのない日が一刻も早く訪れることを願いつつ、ひとりひとりが感染予防対策の徹底心がけましょう。

日本国内で承認されている新型コロナウイルスの治療薬

一般名(商品名)	製造販売元	作用	対象
レムデシビル(ベクルリー)	吉利アド	エボラ出血熱の薬として開発された抗ウイルス薬	中等症〜重症
デキサメタゾン(デカドロン)	日医工など	抗炎症のステロイド薬	中等症〜重症
バリシチニブ(オルミエント)	日本イーライリリー	関節リウマチなどの薬	中等症〜重症
カシリビマブ/イムデビマブ(ロナプリー)	中外製薬	2種類の抗体を使う「抗体カクテル療法」	軽症〜中等症

コロナ禍の子どもへの影響

千秋病院小児科 矢嶋たえ子医師に聞きました



尾張健康友の会では、一人ひとりの健康づくりを大切にしながら、安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。子育て中のみなさんの病気や健康づくりの悩みに千秋病院と連携し、医師・看護師などの専門職と少人数での交流や、オンラインの企画に役立てていきたいと考えています。

ストレスが問題

新型コロナウイルス感染症の流行が始まってから2回目の夏を迎えました。突然の休校、休園に始まり、外出を制限され、友達と遊ぶことも許されず、当たり前だった日常は奪われました。まだまだ収束のめどは立たず、子どもたちは大きなストレスを感じています。

その一環として、近隣幼稚園・保育園へ「子ども健康・成長の悩み」と調査を行いました。この中で質問があった「コロナの子どもへの影響と気を付けること」は、「」に、千秋病院小児科の矢嶋たえ子医師が答えてきました。

上っています。子どもたちには現れやすいサインとしては頭痛、腹痛などの身体症状や、眠れない、落ち着きがない、しがみついたり、夜尿などがありません。これらの症状は一時的で時間と共に回復することが多いですが、長引いたり、気になる状態があれば専門家に相談しましょう。家庭での対応としては、子どもが話すこととは否定せず聴いてあげる、親子で体を動かしたり、室内でできる遊びを取り入れる、子どもに合ったストレス対処法を見つけるなどです。

大人のこころの状態も、子どものこころにも大きく影響します。大人のセルフケアも大切です。

マスクの使い方

マスクが子どもの脳の発達に影響する可能性があります。乳児は目や口がダイナミックに動く表情を見て、喜びや怒りなど相手の感情を理解する能力を発達させます。また、相手が口から発する音声と、それに伴う口の動きの視覚情報を統合しながら、言語を獲得していきます。

ワクチン接種は？

新型コロナウイルス接種が進み、一宮市では60歳未満の方の接種も始まっています。ワクチンは高齢者の感染者数、重症者数が減っていることから効果は期待できます。12歳以上の子どもへの接種も意義があると考えます。

ただし副反応が強く出る場合も考えられるので、メリット、デメリットをよく理解したうえで接種しましょう。接種を希望しない人に対しては差別などがなく、十分な配慮が必要となります。

マンモサンデー

千秋病院で10月17日、乳がん検査を実施します

「ジャパンマンモグラフィーサンデー」は、多忙な平日を過ごす女性のために認定NPO法人J.POSH(日本乳がんピククリボン運動)が全国の医療機関に呼びかけた取り組みです。

千秋病院では10月17日(日) 8時30分〜11時30分

分に、マンモグラフィ、乳腺エコー、視触診の検査を行っています。なお、受診には事前予約が必要です。

予約申し込み、料金などのお問い合わせは、千秋病院受付 ☎0586(77)0012まで。

ISO外部審査を受審

新型コロナウイルス感染症対策の状況にも重点

患者さん、利用者さんへのより質の高い医療・介護・福祉・保健サービス提供につなげるため、尾張健康友会グループはISO9001の認証登録がされており、今年8月26、27日、ISO外部審査を受審しました。



外部審査で日々の業務を見直し

今回は新型コロナウイルス感染症対策の状況にも重点が置かれた審査が行なわれました。日々の業務の適正を評価してもらう機会となり、他部署の業務で高く評価される点や見直した方が良い点などを共有し、認証登録維持することが確認されました。

千秋病院研修医日誌(41)

思わぬ疾患

臨床研修推進室 伊丹 慶輔

少しづつ秋の気配が見えてきた季節ですが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？

千秋病院にて初期臨床研修を始めてはやくも1年半が経過し、現在は再び内科にて研修



研修を開始して以降、学生時代に「この疾患を診ることは生涯ないだろうな」と思っていた疾患に出くわすことが稀にあります。ある患者さんは、よく

見かける疾患にどうも当てはまらずあれこれ悩んでいると「もしや」と思い浮かび、検査してみると確かにの結果が出たのです。国家試験に向けて勉強しているとき、「この疾患の知識は本当に必要なのか？」と疑っていたものも多々ありましたが、実際に臨床の場に出ると何らかの形で役立つおり、あの頃の努力は決して無駄ではなかったのだと感じさせられます。